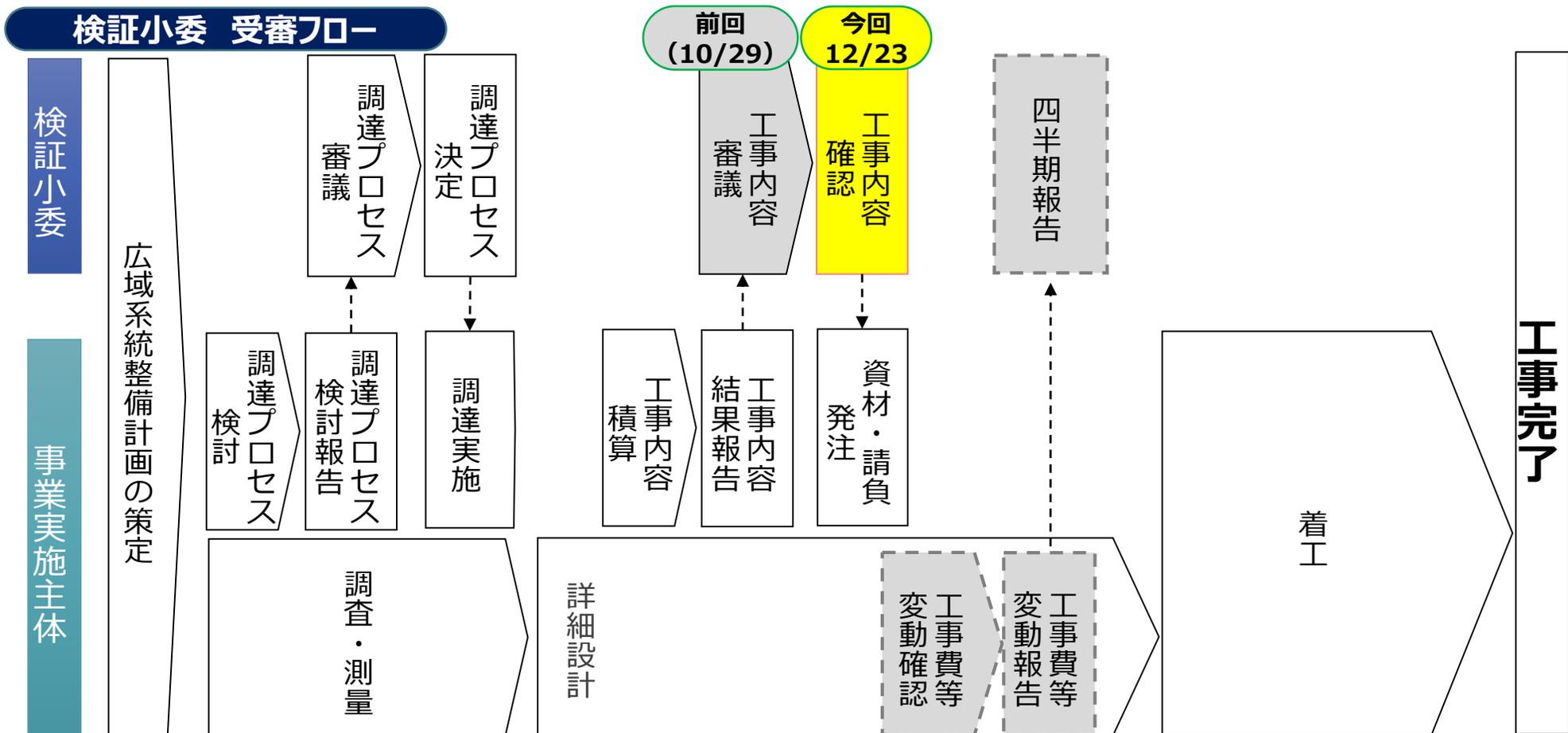


# 「中部関西間連系線に係る広域系統整備計画」における 北近江開閉所新設工事について (事務局確認)

2025年 12月 23日  
広域系統整備委員会  
計画評価及び検証小委員会

1. 本日の検証小委の位置付け
2. 第7回検証小委(10/29)におけるご質問に対する回答の補足
3. 工事費の確認結果
4. 工期の確認結果
5. まとめ

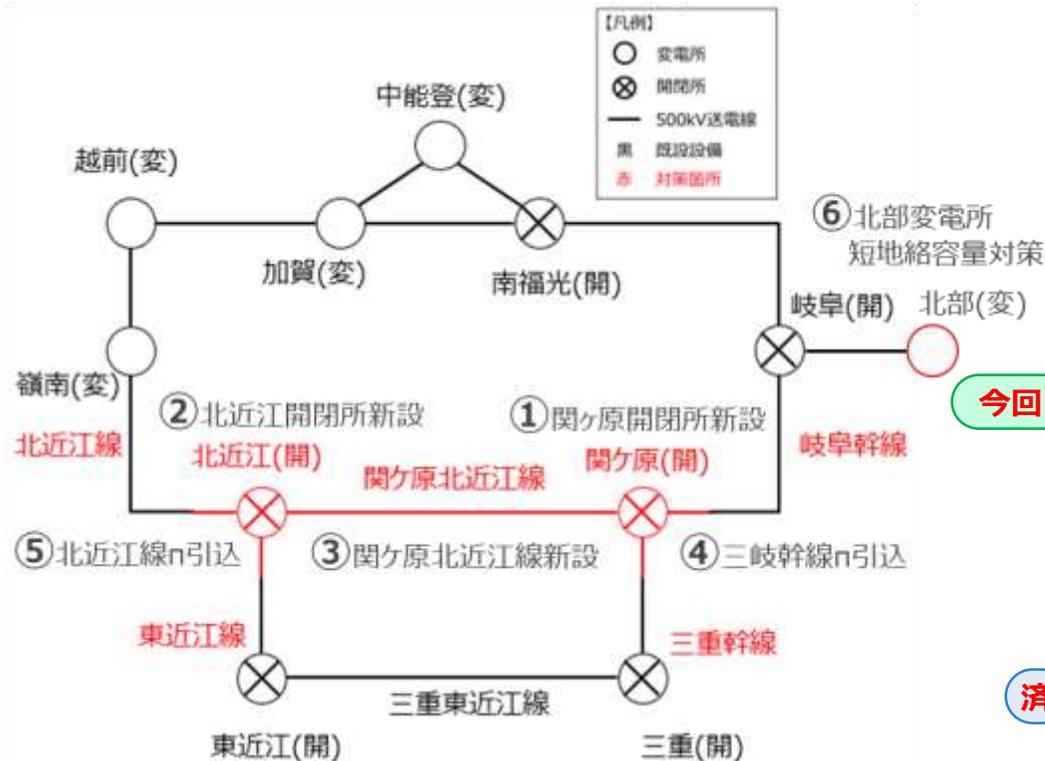
- 検証小委フェーズ2については、①調達プロセスと、②工事内容（工事費・工期）について、事業実施主体の準備ができたタイミングで、それぞれ確認を行っている。
- 前回委員会（10/29）では、「北近江開閉所新設工事」について関西送配電から工事内容報告があり、ご審議いただいた。本日は前回のご審議を踏まえた今後の対応方針についてご審議いただきたい。



◆ **費用の概算額** 1,218億円  
 工事費の概算額 590億円  
 運転維持費の概算額 628億円

◆ **工事完了予定時期** 2030年6月

◆ **事業実施主体** 中部PG、関西送配電



個別工事件名	事業実施主体
① 関ヶ原開閉所新設	中部PG
② 北近江開閉所新設	関西送配電
③ 関ヶ原北近江線新設	中部PG
④ 三岐幹線n引込	中部PG
⑤ 北近江線n引込	関西送配電
⑥ 北部変電所短地絡容量対策	中部PG
— 電磁誘導対策	中部PG・関西送配電
— 給電システム改修	中部PG・関西送配電
— 通信設備	中部PG・関西送配電

- 本委員会において、「**①**調達プロセス」で審議した発注方式の実施状況や、コスト低減の取り組み状況等について、過去の検証手法に倣い確認を進めていく予定。

**検証小委における確認事項**

確認事項	対象の分類	確認項目	確認の観点	報告タイミング
調達プロセス	<b>1.発注方式</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発注方式選定の考え方</li> <li>コスト低減策の活用</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 「主要設備ごとの発注方式の基本的な考え方」との整合</li> <li>② 基本的な考え方に整合しない場合や、基本的な考え方で複数の調達方法を想定していた場合には、市場原理の確保、コスト低減への取組</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広域系統整備計画の策定後、早期に実施</li> </ul>
工事内容	<b>2.工事費</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発注段階の要求仕様、評価方法、工事費</li> <li>具体的なコスト低減施策</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 実施案や過去の工事実績の概算工事費</li> <li>② 工事費が増加する見通しの場合、増加要因・理由や対応策 (現地調査・詳細設計・物価変動反映による影響)</li> <li>③ 具体的なコスト低減施策</li> <li>④ 調達プロセスの進捗状況</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査・測量等により設計精度が高まった段階で、資材又は請負発注前まで</li> </ul>
	<b>3.工期</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>工期の見通し</li> <li>本計画の工事完了時期への影響</li> <li>工期短縮への取組方策</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 本計画の工事完了時期に対しての変化内容・理由。遅延する見通しの場合、対応策</li> <li>② 工期短縮に向けた事業実施主体の取組・方策</li> <li>③ プロジェクト管理体制 (全体管理含む)</li> </ol>	

今回

- 前回委員会では、北近江開閉所新設工事（GIS）の工事内容について関西送配電から報告があった。
- 前回委員会にて出た質疑に対する回答に関し、事務局にて補足の回答が必要と判断した内容に関して関西送配電に聞き取りしたことから、その内容をご確認いただきたい。











- 北近江開閉所新設工事の工事費については、12スライドの通り関西送配電より報告があった。
- GISについては、メーカーと協働で実施した技術検討により [REDACTED] 億円のコスト低減が図られたとのことであった。



# 4. 工期の確認結果

■ 北近江開閉所新設工事は、2030年3月の竣工予定であり、現時点において、工事完了見込みに変更はないとのことだった。

第7回計画評価及び検証小委員会  
(25/10/29) 資料2抜粋

※2025.12現在

件名	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度
北近江開閉所新設	▼ 着手						▼ 2030年3月 竣工
	設計		環境調査・その他許認可		▼ 2030年6月 運開		

以下、事務局確認

項目		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度
調査・測量		[Bar]						
関係法令	その他許認可			[Bar]				
設計・発注・製作	電気設計	[Bar]						
	土木設計		[Bar]					
	建築設計		[Bar]					
	通信設計	[Bar]	[Bar]					
	変電 資材発注・製作	[Bar]	[Bar]					
	通信 資材発注・製作	[Bar]	[Bar]					
施工	電気工事				[Bar]	[Bar]		
	土木工事				[Bar]		[Bar]	
	建築工事				[Bar]		[Bar]	
	通信工事				[Bar]	[Bar]		
試験	使用前自主検査						[Bar]	▼ 竣工 2030/3

### 1. 工事内容（工事費）について

- GISの工事費について、メーカーと協働で実施した技術検討によりコスト低減が図られており、今回の工事費については妥当と考える。

### 2. 工事内容（工期）について

- 2030年6月の運開予定に間に合うように、2030年3月までに竣工の見込みであることを確認した。

### 3. 今後に向けて

- 中部関西間連系線に係る広域系統整備計画のうち、北近江開閉所新設工事については、今回の検証結果を踏まえ、関西送配電からの提案通りに進めることでどうか。

その上で、

- 関西送配電においては、更なるコスト低減について検討を継続するとともに、その他工事についてもコスト低減に向けた取組を進めること。
- なお、今後の情勢変化により、想定し得なかった工事費増額や工程遅延のリスクが発現した段階で、早期に広域機関に報告すること。広域機関としても関西送配電と綿密に連携しながら対応を検討していくこととする。